

## カテーテル関連血流感染対策

井上善文

- 1 中心静脈カテーテルの衛生管理
  - 1.1 中心静脈栄養法(total parenteral nutrition:TPN)の適応<sup>208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228</sup>
    - 1.1.1 栄養療法が必要な場合は可能な限り経腸栄養を用いる。(II A)
    - 1.1.2 静脈栄養は経腸栄養または経口摂取が不可能または不十分な場合に用いる。(III A)
    - 1.1.3 中心静脈栄養法は静脈栄養の長期化が予測される場合に用いる。(III A)
  - 1.2 中心静脈カテーテル選択の基準
    - 1.2.1 必要最小限の内腔数のカテーテルを選択する。<sup>229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238</sup>(I A)
    - 1.2.2 長期使用が予想される患者では、長期留置用のカテーテルを選択する。<sup>239, 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 247</sup>(II A)
  - 1.3 カテーテル挿入部位
    - 1.3.1 感染防止のためにはカテーテル挿入は鎖骨下静脈穿刺を第一選択とする。<sup>248, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255</sup>(II A)
  - 1.4 皮下トンネルの作成
    - 1.4.1 短期間の留置では、皮下トンネルを作成する必要はない。<sup>256, 257, 258, 259, 260, 261</sup>(I A)
  - 1.5 定期的な入れ換え
    - 1.5.1 定期的にかテーテルを入れ換える必要はない。<sup>262, 263, 264</sup>(II A)
  - 1.6 高度バリアプレコーション
    - 1.6.1 中心静脈カテーテル挿入時は高度バリアプレコーション(清潔手袋、長い袖の滅菌ガウン、マスク、帽子と大きな清潔覆布)を行う。<sup>265, 266, 267, 268</sup>(I A)
  - 1.7 抗菌薬の予防投与
    - 1.7.1 中心静脈カテーテル挿入に伴う抗菌薬の予防投与は行わない。<sup>269, 270, 271, 272, 273, 274</sup>(II A)
  - 1.8 カテーテル挿入時の皮膚の消毒剤
    - 1.8.1 カテーテル挿入時の消毒は、0.5%クロルヘキシジンアルコールまたは 10%ポビドンヨードを用いる。<sup>275, 276, 277, 278, 279, 280</sup>(I A)
  - 1.9 カテーテル留置期間中の皮膚の消毒剤
    - 1.9.1 カテーテル挿入部皮膚の処置で用いる消毒薬は、以下の 3 つから選択する：0.5%クロルヘキシジンアルコール、10%ポビドンヨード、ヨードチンキ。<sup>281, 282,</sup>